

第8回「山形県家計消費動向調査」結果

(平成20年6月調査)

【調査結果の要旨】

- ◆ 消費指数は前回調査時点（平成20年3月）よりも18.0ポイント低下し、▲125.3となるなど、消費マインドの悪化に歯止めがかからない状況が続いている。
- ◆ 消費指数の内訳は景気判断指数が▲69.5、暮らし向き指数が▲55.8となっており、いずれも前回より低下した。特に景気と物価に関する認識が悪化したことがマインド低下につながった。
- ◆ 今後の見通しについては、消費指数が9.6ポイント低下し▲134.9となるなど、消費マインドの悪化が続く見込み。
- ◆ 特別調査：最近の貯蓄動向について
 - ・ 貯蓄のない世帯は12.5%、30～40歳代世帯に多い。
 - ・ 1年前と比べて貯蓄残高が減った世帯は57.9%、生活費のために貯蓄を取り崩している世帯が多数。
 - ・ 貯蓄する“ゆとり”がないと感じている世帯は72.5%、収入減・物価高などの影響で貯蓄が難しくなっており、将来への不安が拡大。

平成20年6月

株式会社 荘銀総合研究所

目 次

| | |
|-------------------------------|----|
| I. 今月の消費指数 | 1 |
| II. 調査結果 | 3 |
| 1. 景気判断と見通し | 3 |
| ① 県内景気 | 3 |
| ② 雇用環境 | 3 |
| ③ 日用品価格（物価） | 4 |
| 2. 暮らし向き判断と見通し | 6 |
| ① 世帯（勤労）収入 | 6 |
| ② 資産価値 | 6 |
| ③ お金の使い方（支出状況） | 7 |
| ④ 生活のゆとり | 7 |
| 3. 日常の買い物に関する判断と見通し | 9 |
| ① 嗜好品（お茶・コーヒー、お酒、たばこなど） | 9 |
| ② ファッション衣料・靴など | 9 |
| ③ 家電・AV製品、家具など | 10 |
| ④ 金融商品（株式、債券など） | 10 |
| ⑤ 娯楽・レジャー | 11 |
| ⑥ 習い事 | 11 |
| ⑦ 交際費 | 12 |
| 4. 大きな買い物に関する判断と見通し | 13 |
| ① 自家用車 | 13 |
| ② 住宅の購入・リフォーム | 13 |
| 5. 特別調査：最近の貯蓄動向について | 14 |
| (1) 貯蓄の有無について | 14 |
| (2) 保有する貯蓄残高 | 15 |
| (3) 貯蓄の目的（複数回答） | 16 |
| (4) 貯蓄残高の動向 | 16 |
| (5) 貯蓄残高に対する満足度 | 18 |
| (6) 貯蓄の目標金額 | 18 |
| (7) 貯蓄する“ゆとり” | 19 |
| III. 調査の概要 | 20 |

I. 今月の消費指数

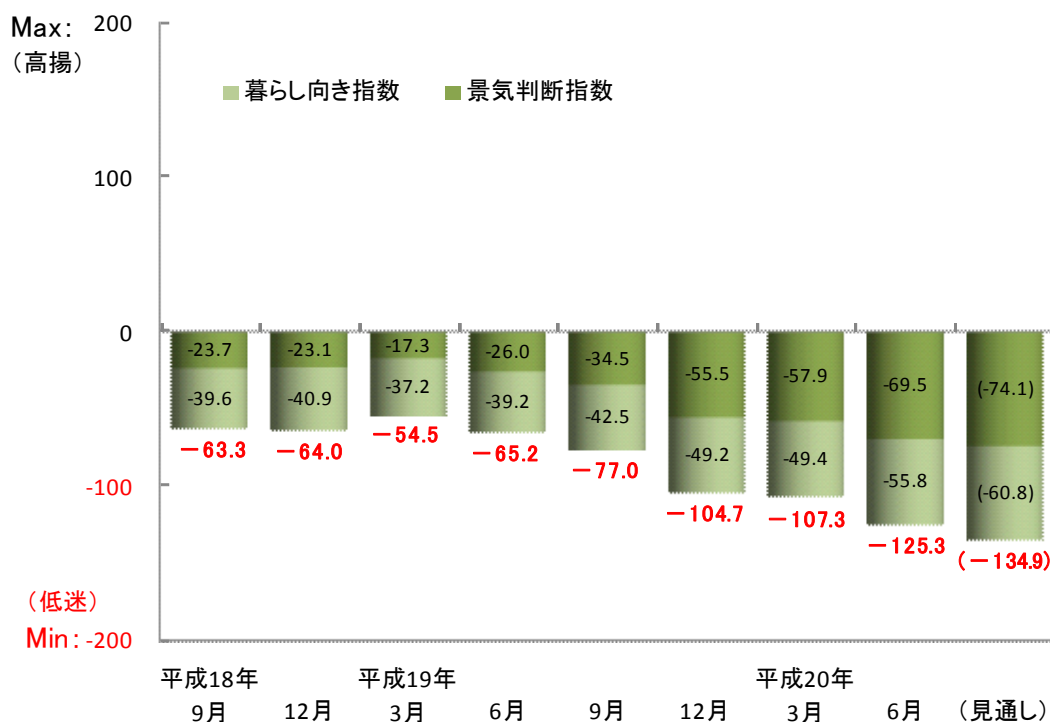
★ 消費指数は▲125.3 ～ 消費マインドの悪化に歯止めがかからない状況 ～

消費指数は前回調査時点（平成20年3月）よりも18.0ポイント低下し、▲125.3となるなど、消費マインドの悪化に歯止めがかからない状況が続いている。

消費指数の内訳は景気判断指数が▲69.5、暮らし向き指数が▲55.8となっており、いずれも前回より低下した。特に景気と物価に関する認識が悪化したことがマインド低下につながった（次頁参照）。

なお、今後の見通しについても、消費指数が9.6ポイント低下し▲134.9となるなど、消費マインドの悪化が続く見込み。

消費指数の推移



【指数の見方】

消費指数は①景気判断指数と②暮らし向き指数の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとりません。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します（詳しくはIV. 調査の概要6. 指数の作成方法をご覧ください）。

①景気判断指数（指数レンジ100～▲100）：

家計を取り巻く経済環境をどのように認識しているかを表した指数です。「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格（物価）」に関する設問の回答結果から作成されます。

②暮らし向き指数（指数レンジ100～▲100）：

“我が家の暮らし向き”をどのように認識しているかを表した指数です。「世帯収入」、「資産価値」、「お金の使い方」、「暮らし向き」に関する設問の回答結果から作成されます。

消費指数の推移（内訳）

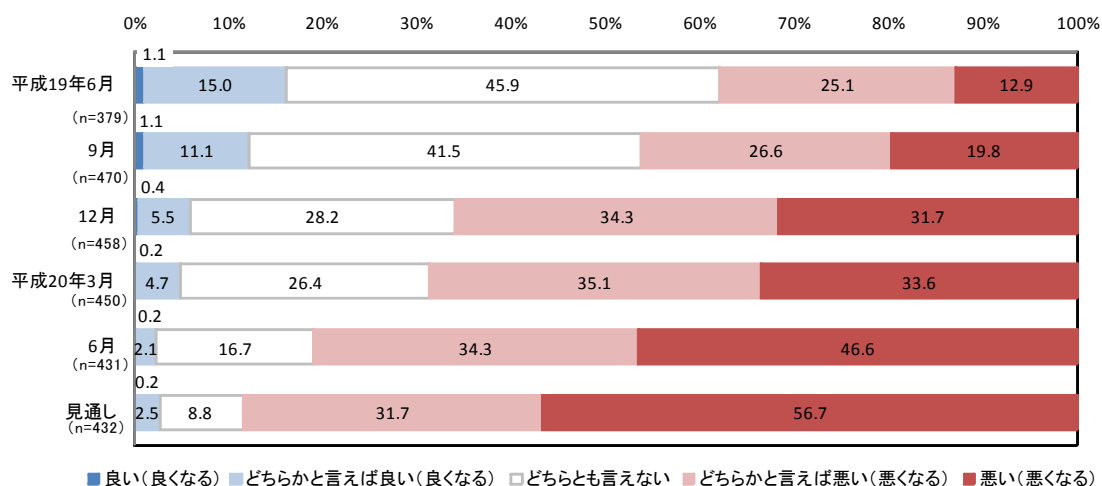
| | 平成 19 年 6 月 | 9 月 | 12 月 | 平成 20 年 3 月 | 6 月 | 見通し |
|----------------|----------------|---------|---------|----------------|---------|--------|
| 消費指数 | -65.0 | -77.0 | -104.7 | -107.3 | -125.3 | -134.9 |
| （前回差） | (-10.5) | (-12.0) | (-27.7) | (-2.6) | (-18.0) | (-9.6) |
| 景気判断指数 | -25.9 | -34.5 | -55.5 | -57.9 | -69.5 | -74.1 |
| （前回差） | (-8.6) | (-8.6) | (-21.0) | (-2.4) | (-11.6) | (-4.6) |
| 景気 | -5.6 | -8.8 | -15.2 | -16.2 | -20.8 | -23.7 |
| （前回差） | (-0.9) | (-3.2) | (-6.4) | (-1.0) | (-4.6) | (-2.9) |
| 雇用環境 | -3.9 | -9.1 | -12.1 | -13.3 | -16.7 | -19.9 |
| （前回差） | (0.1) | (-5.2) | (-3.0) | (-1.2) | (-3.4) | (-3.2) |
| 物価 | -16.4 | -16.6 | -28.2 | -28.4 | -32.0 | -30.5 |
| （前回差） | (-7.8) | (-0.2) | (-11.6) | (-0.2) | (-3.6) | (1.5) |
| 暮らし向き指数 | -39.1 | -42.5 | -49.2 | -49.4 | -55.8 | -60.8 |
| （前回差） | (-1.9) | (-3.4) | (-6.7) | (-0.2) | (-6.4) | (-5.0) |
| 世帯収入 | -6.8 | -8.7 | -10.3 | -9.9 | -10.6 | -13.8 |
| （前回差） | (0.0) | (-1.9) | (-1.6) | (0.4) | (-0.7) | (-3.2) |
| 資産価値 | -9.9 | -9.3 | -11.4 | -11.3 | -13.3 | -14.3 |
| （前回差） | (-0.9) | (0.6) | (-2.1) | (0.1) | (-2.0) | (-1.0) |
| 支出状況 | -9.6 | -10.6 | -11.7 | -12.3 | -13.7 | -15.8 |
| （前回差） | (-1.1) | (-1.0) | (-1.1) | (-0.6) | (-1.4) | (-2.1) |
| 暮らしのゆとり | -12.8 | -13.9 | -15.8 | -15.9 | -18.2 | -16.9 |
| （前回差） | (0.1) | (-1.1) | (-1.9) | (-0.1) | (-2.3) | (1.3) |

Ⅱ. 調査結果

1. 景気判断と見通し

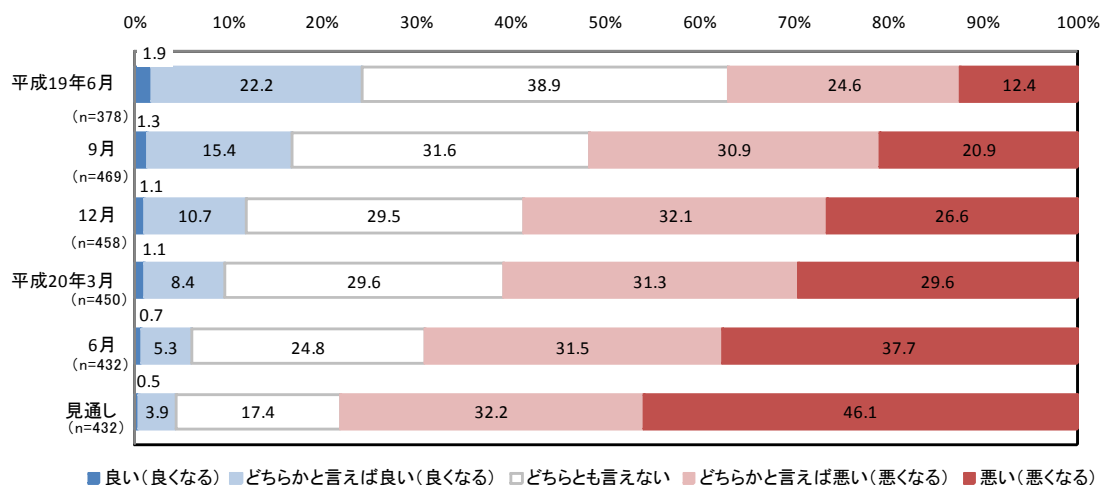
① 県内景気

現状認識は「悪い」(46.6%)と「どちらかと言えば悪い」(34.3%)を合わせると80.9%の世帯が悪いと判断しているほか、県内の景気に対する不安も拡大している。また、今後の見通しについても「悪くなる」(56.7%)および「どちらかと言えば悪くなる」(31.7%)と考えている世帯が88.4%となるなど、先行き不安も拡大している。



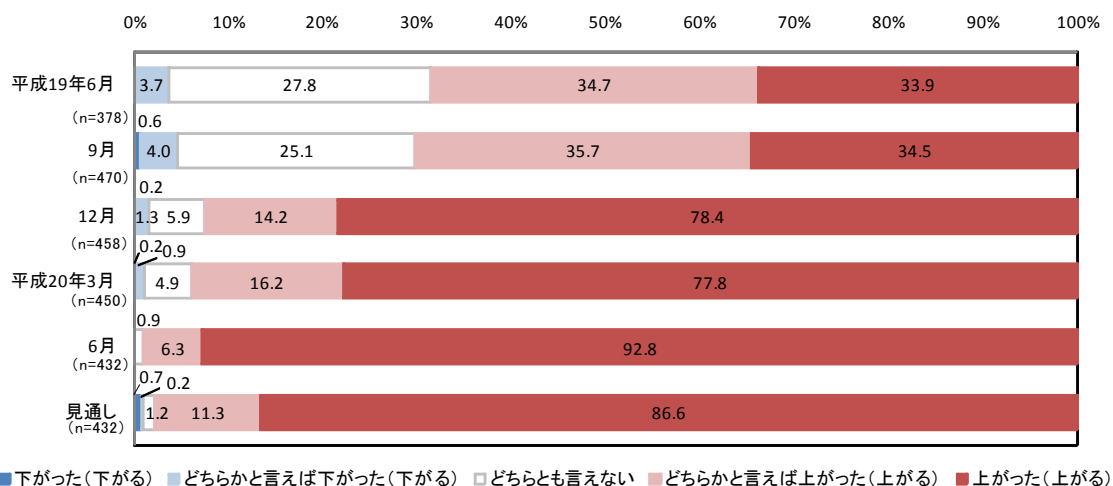
② 雇用環境

現状認識は「悪い」(37.7%)と「どちらかと言えば悪い」(31.5%)を合わせると69.2%の世帯が悪いと判断しているほか、雇用環境も引き続き厳しさを増している。また、今後の見通しについても「悪くなる」(46.1%)および「どちらかと言えば悪くなる」(32.2%)と考えている世帯が78.3%となっており、先行き不安も拡大している。



③ 日用品価格（物価）

現状認識は「上がった」（92.8%）と「どちらかと言えば上がった」（6.3%）を合わせると99.1%の世帯が上がったと感じており、ほぼすべての世帯で物価の上昇を実感している。また、今後の見通しについても、「上がる」（86.6%）および「どちらかと言えば上がる」（11.3%）と考えている世帯が9割を超えており、引き続き物価上昇を懸念する世帯が多い。



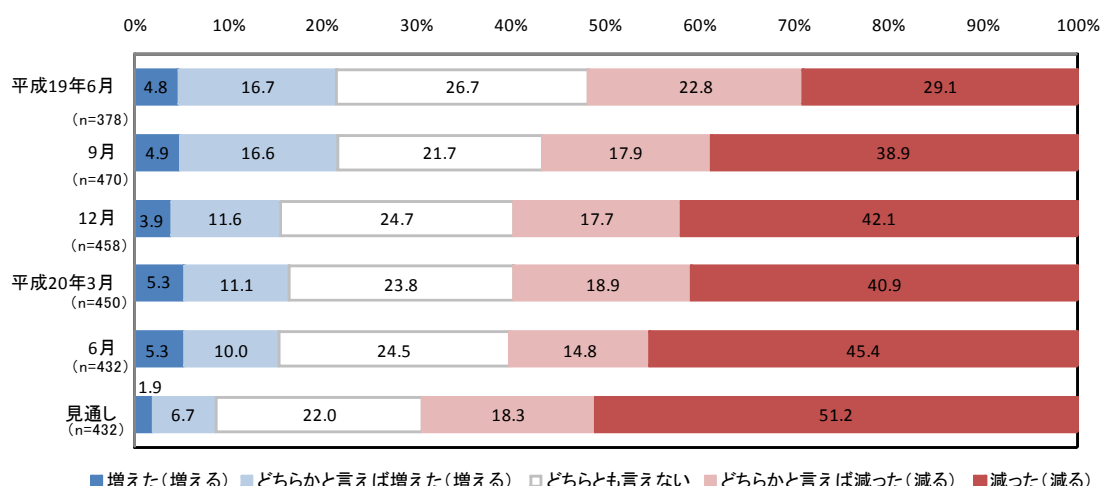
■景気・雇用環境・物価などに関する主な自由回答(住まい、世帯主年齢、世帯収入)

- ・ 景気は悪くなる一方で、物価だけがどんどん上がり、この先どう暮らしていけるのか不安だらけです。(最上地区 46歳 -)
- ・ 妻の収入は固定給でなく、景気の動向に大きく左右されがちです。そのため将来への不安を感じています。(村山地区 54歳 500~799万)
- ・ 原油価格の高騰に関連した食品、日用品の値上りには困ったものです。物価の安定に加えて、景気の向上を図る対策が急務と思います。(村山地区 60歳 300~499万)
- ・ 将来の不安は大きい。老後は自分の貯蓄で迎えなければならないし、親の面倒も見なければならない。子育てもある。景気も悪く物価も何もかも上昇。生きていけるのかと不安ばかりが募ります。(村山地区 66歳 500~799万)
- ・ 今後も値上げは続くと思うので、とても不安です。本当に必要なことにだけしかお金を使わない人が増えてきて、景気は良くなるとは思えません。(庄内地区 54歳 800万~)
- ・ ガソリン等の高騰は異常です。今後の景気に少なからずとも、というよりも大いに影響があると思われます。(村山地区 42歳 500~799万)
- ・ ガソリンや食品の値上げを昨年より厳しく感じている。「高くても必要だから仕方ない」という考えから、「必要でも我慢する」という考えに変わりつつある。勤務体制も日に日に厳しくなり、長時間残業をせざるを得ないが、残業上限でカットされている。景気が少しずつ良くなりつつあったのが、急に落ち込んだように感じている。(村山地区 45歳 300~499万)
- ・ 収入は変わらず、支出だけ増えるのでは生活が苦しいのは当たり前前だと思う。(村山地区 39歳 ~299万)
- ・ 4月から子供を保育園に預け、臨時職員に就いた。夫は仕事の契約が終わり、まだ職に就いていない。土日はバイトをしているが、収入は少ないので、かなりキツイ。(置賜地区 33歳 ~299万)
- ・ 収入は増えないが社会保険料、住民税、物価の上昇で、ますますゆとりがなくなってくる。これから教育費がかかるようになると、どこかを切り詰めなくてはならない。(庄内地区 40歳 500~799万)
- ・ 現在、主人が出張に行っています。県内では仕事がなく県外での仕事が増えている感じがします。その分収入は多くなるが、二重生活になるので出費もそれ以上になり、良し悪しです。(庄内地区 30歳 300~499万)
- ・ 値上りが相次ぎ、生活が苦しくなってきた。子供達を食わせていくには収入を増やす以外にないので働きに出たが、子供の病気などで休む日が多く、高収入は望めない。暮らしにくい世の中だと思う。(村山地区 34歳 300~499万)
- ・ 値上りで家計は火の車です。収入の担い手は1人ですが、それではとても足りません。雇用環境も良くないし、いかに出費を抑えるか、貯蓄を増やすか、考えなければならない。(置賜地区 43歳 500~799万)
- ・ またガソリンが値上りし、車をよく使う地域に住む我々には打撃である。物価も上がる一方で、最近では節約に力を入れている。水道、電気、外食を控えるなど。これから教育費がかかるのに、どうすればいいか。専業主婦も働かないかな。(置賜地区 43歳 500~799万)
- ・ 物価、ガソリンの値上げで生活費が増えています。車をなるべく使わず、自転車を利用。いつまで続くのか不安です。(村山地区 34歳 300~499万)
- ・ ガソリン代や物価上昇がいつまで続くのか不安。収入は変わらないのに出費は増えるので、全然貯蓄ができない。将来が不安です。(村山地区 30歳 300~499万)
- ・ 2人で過ごす老後の貯蓄は万全と思っていたが、最近の物価高に、今はすごく不安だ。どれだけ資産があれば十分と言えるのか。日々暮らせば万全と言う世の中ではなくなってきた。1回の買物の消費が増えた事も痛手だ。はっきりと物の値段が上がっている事を実感する日々だ。(庄内地区 58歳 300~499万)
- ・ 老後の不安が消えません。年金等の支給も期待できないので、月々の貯蓄に力を入れています。物価高や税金高でどうしたらいいものか。(村山地区 59歳 300~499万)
- ・ 物価の値上りが深刻化している。光熱費は昨年と比較しても明らかだ。収入の期待ができないとすれば、どこを削って現在の生活水準を維持させていけばいいのか。先行きが不安。(村山地区 48歳 500~799万)
- ・ いつまで日用品の価格が上がるのか。ガソリンも考えられないくらい上がっていて、ゆとりある生活なんて出来るわけがない。収入は上がらない、物価は上がる、消費税も上がるなどと言う話もあり、日本のこれからはとても不安です。(置賜地区 37歳 500~799万)
- ・ 原油高騰で、給与・ボーナスに大きな影響が出ている(運送会社勤務のため)。物価も上がり始め、ますます家計が厳しくなると思われる。貯蓄も減っていくので、この先不安になる。(村山地区 49歳 300~499万)
- ・ 物価が上がり生活を圧迫している。預金金利が低すぎる。投信の今後の値上りを期待している。(村山地区 60歳 500~799万)
- ・ 人口が減りスーパーがなくなり、不便な町になっていきます。景気の上向きが見られず足踏みの状況です。不安材料がいっぱいです。(最上地区 61歳 800万~)

2. 暮らし向き判断と見通し

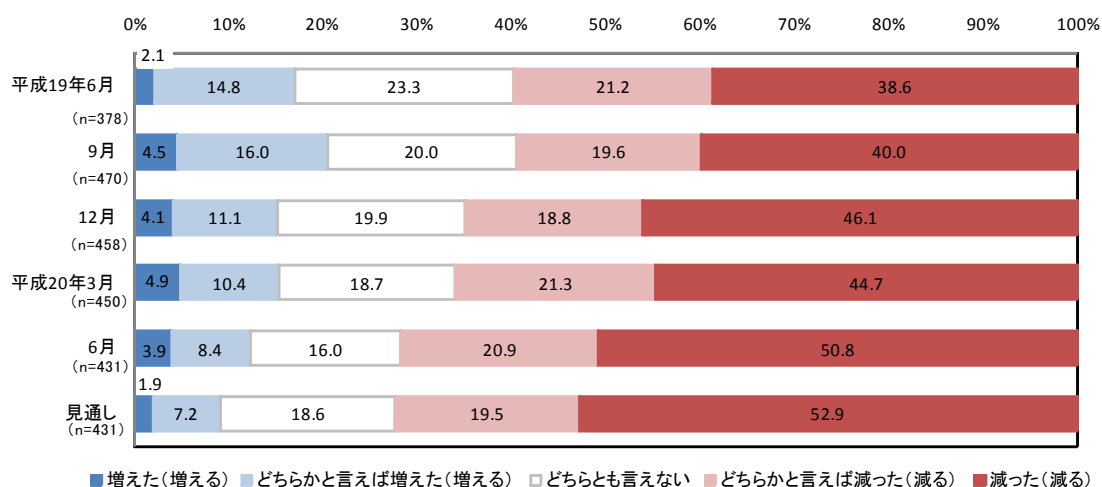
① 世帯（勤労）収入

現状認識は「減った」(45.4%)と「どちらかと言えば減った」(14.8%)を合わせると60.2%の世帯が減ったと感じている。また、今後の見通しについても、収入が「減る」(51.2%)および「どちらかと言えば減る」(18.3%)と考えている世帯が69.5%となるなど、引き続き収入が増えると期待する世帯は少ない。



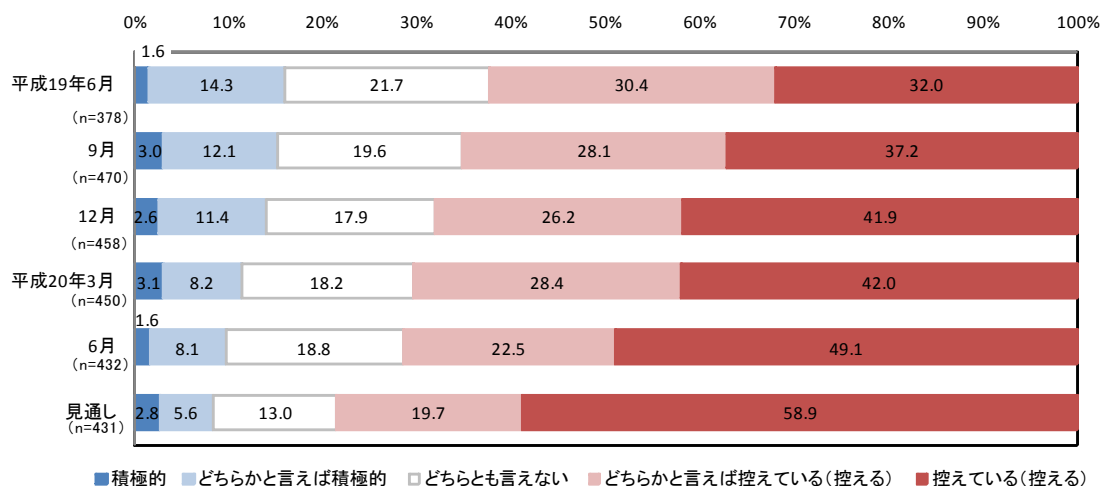
② 資産価値

現状認識は「減った」(50.8%)と「どちらかと言えば減った」(20.9%)を合わせると71.7%の世帯が資産価値は減ったと感じているほか、資産価値の下落を気にする世帯も徐々に増えている。また、今後の見通しについても資産価値は「減る」(52.9%)および「どちらかと言えば減る」(19.5%)と考えている世帯の割合が72.4%となるなど、資産価値の下落を見込む世帯が拡大している。



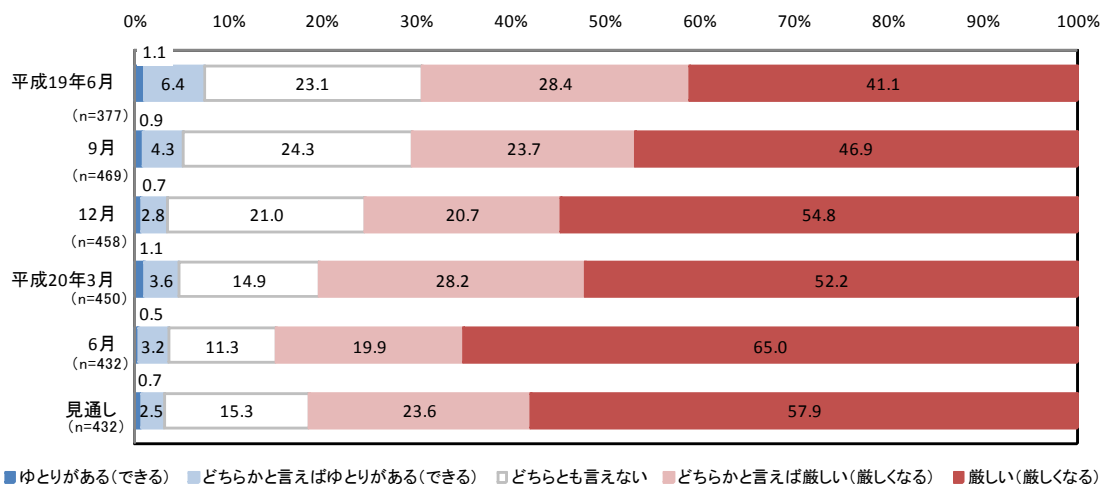
③ お金の使い方（支出状況）

現状認識は「控えている」（49.1%）と「どちらかと言えば控えている」（22.5%）を合わせると 71.6%の世帯がお金を使うことを控えており、支出意欲は徐々に低下している。また、今後の見通しについても「控える」（58.9%）および「どちらかと言えば控える」（19.7%）という世帯が 78.6%と拡大傾向にあり、支出意欲もさらに低下する見込み。



④ 生活のゆとり

現状認識は「厳しい」（65.0%）と「どちらかと言えば厳しい」（19.9%）を合わせると 84.9%の世帯が厳しいと感じているほか、暮らし向きも厳しさを増している。また、今後の見通しについては、「厳しくなる」（57.9%）および「どちらかと言えば厳しくなる」（23.6%）と見込む世帯が 81.5%となっているなど、依然として生活のゆとりを実感できない状況は続く見込み。



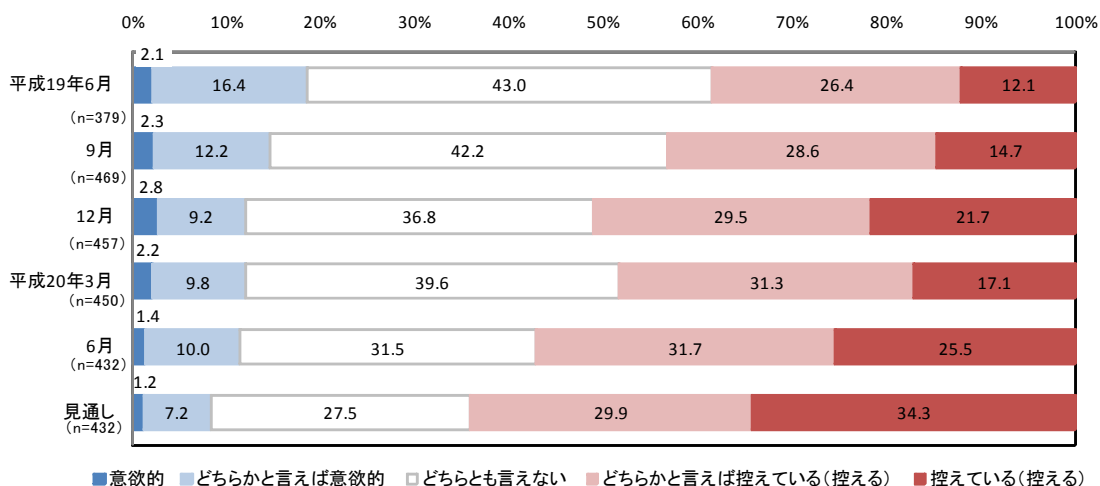
■収入・資産・お金の使い方・生活のゆとりに関する主な自由回答【住まい、世帯主年齢、世帯収入】

- ・ 住宅ローンの返済があり、収入が少ない為生活が豊かにならず困っている。また、食品が値上りし苦しい状況である。(置賜地区 60歳 ~299万)
- ・ 収入が変わらないのに、教育費・生活費が増えていく事を考えると、次の子供をつくる予定が立てられず、また、将来不安になります。エコがよく言われ節約にもつながるが、光熱費の値上りで金額的には何もよくならなかった。(村山地区 34歳 500~799万)
- ・ 子供が生まれて来月から児童手当が支給されるが、仕事が十分にできない分の補完を考えると収入が増えたという実感は湧かないような気がする。もっと手当の内容等考えて欲しいと思う。(庄内地区 41歳 300~499万)
- ・ 全てが値上りする一方で、収入は増えないので生活は全くゆとりがなく、娯楽・レジャーは殆どできない。貯金を取り崩して生活費に当てています。原油高や食糧問題は世界的なことなので個人ではどうする事もできない気がする。さらに値上りしたらと思うと気が重いです。(置賜地区 41歳 ~299万)
- ・ 何故か収入が毎年減り、生活が苦しくなっている。特に大きな出費もなく、教育費も少し減ったのに、細かい出費が重なり大変です。(庄内地区 33歳 300~499万)
- ・ 収入は増えないのに、生活に関わる全ての物の値段が上がっている。返済の目途も立たず、日々の生活で精一杯。貯蓄のゆとりはありません。(庄内地区 48歳 500~799万)
- ・ 日常的な出費が大幅に多くなっている事に驚いています。収入はほとんど変わらないので、これから毎月の貯蓄額が減っていくことになるのかな。(村山地区 43歳 500~799万)
- ・ いくら貯蓄を頑張っても、いずれ新築しようと考えたら全然十分ではなく、頭が痛い。(村山地区 42歳 300~499万)
- ・ 物価が全体的に上がったので、収入を増やす為にパートをはじめることにした。今年は国債の満期を迎えるので、次はどんな貯蓄方法を選択するか迷っている。(庄内地区 40歳 300~499万)
- ・ 次々と値上りし、収入は少しですが増えているものの、貯蓄するゆとりは全くなく、赤字にならないように必死です。安いスーパーに向かう為車を使えば高いガソリン代がかかる。値下がりを切に願う日々です。(庄内地区 25歳 300~499万)
- ・ 貯蓄は教育費に使ってどんどん減っていきます。給料の上昇どころか、ボーナスは何年も出ていません。こんなことなら教育資金はもっとしっかり考えておくべきだったと後悔しています。教育費だけでなく生活費も貯蓄から出ています。今が精一杯で老後の事など考えられない。(最上地区 53歳 300~499万)
- ・ 給与はそのままだが、物価はどんどん上がっていき、貯蓄を崩している状況。このままでは生活ができなくなりそう。子供達の将来が不安。(庄内地区 70歳 500~799万)
- ・ ガソリンの値上げからはじまり、日用品・食品全てが値上げになり、日々の生活にまったくと言っていいほどゆとりがなくなってきた。切り詰める所を切り詰めるだけでは、もうだめだという思い。大きく生活全体を見直していく必要がある。(庄内地区 48歳 500~799万)
- ・ 値上げラッシュで切り詰めるどころも、もうありません。(村山地区 57歳 300~499万)
- ・ ガソリン、食品等どんどん値上りしている。なるべく切り詰めるようにしているが、貯金もできない。(庄内地区 41歳 500~799万)
- ・ ガソリン代が高くなったので、エコ運転を心がけたり、車での外出を控えている。(庄内地区 49歳 800万~)
- ・ 物価が上がってきて生活が苦しい。もっと旅行をしたり外食したりしたいが、どうしても控えてしまう。(庄内地区 28歳 300~499万)
- ・ ガソリンの値上げが厳しい。食品も値上げ傾向で買物を控えている状態。レジャーと言っても近場か家に居るよう心がけている。(最上地区 39歳 300~499万)
- ・ 私(妻)のアルバイト収入もなくなったので、貯金に余裕はなくなった。ガソリン代も高いのでレジャーも消極的。食生活も見直して切り詰める事を考えなくては。(村山地区 41歳 500~799万)
- ・ 物価がどんどん上がっています。低所得者にとっては、切り詰める所がないので本当に大変です。(置賜地区 25歳 300~499万)
- ・ ガソリンや食料品の値上げが相次いだので、本当に家計を直撃し、困っています。育ち盛りの子供が3人もいるので、色々と節約や工夫で頑張っている。(庄内地区 29歳 ~299万)
- ・ 値上りラッシュはとても辛いです。先行き不安なので、とにかく出費を控えます。節約生活頑張ります。(村山地区 45歳 500~799万)
- ・ 今は大学の教育費にボーナスを持っていかれ、ゆとりがない状態。そのなかで興味を大切にしながら、心のゆとりを持てるよう暮らしています。2年後の退職金を楽しみにしています。(庄内地区 58歳 500~799万)
- ・ 原油高で値上りし大変です。国債金利上昇に伴い長期ローン等も影響が出るような話も聞いています。何とかゆとりを出したいと、金融商品について色々勉強するようになりました。(村山地区 28歳 500~799万)

3. 日常の買い物に関する判断と見通し

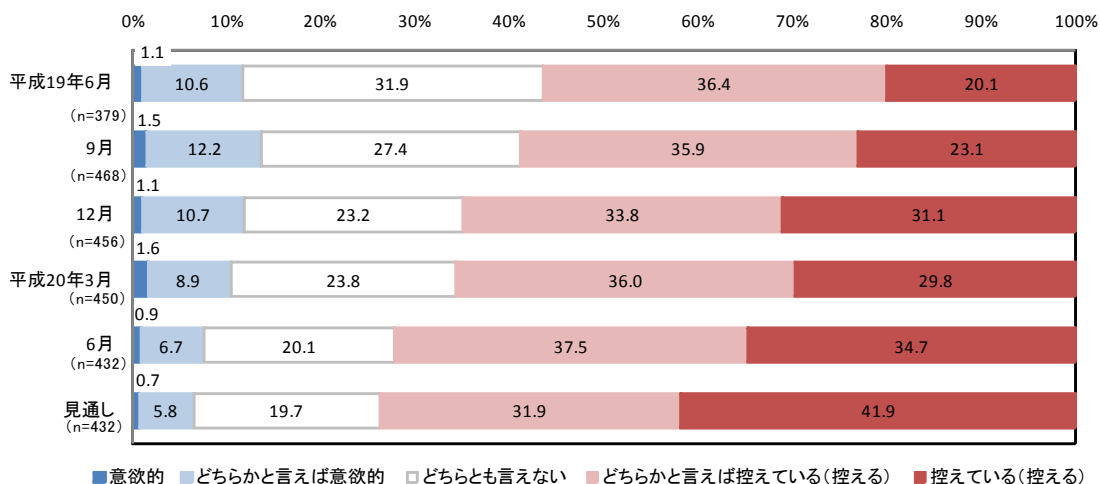
① 嗜好品（お茶・コーヒー、お酒、たばこなど）

現状認識は「控えている」（25.5%）と「どちらかと言えば控えている」（31.7%）を合わせると 57.2%の世帯が嗜好品の購入を控えている。また、今後の見通しについても購入を控えると考えている世帯が増えており、買い控える傾向はさらに高まる見込み。



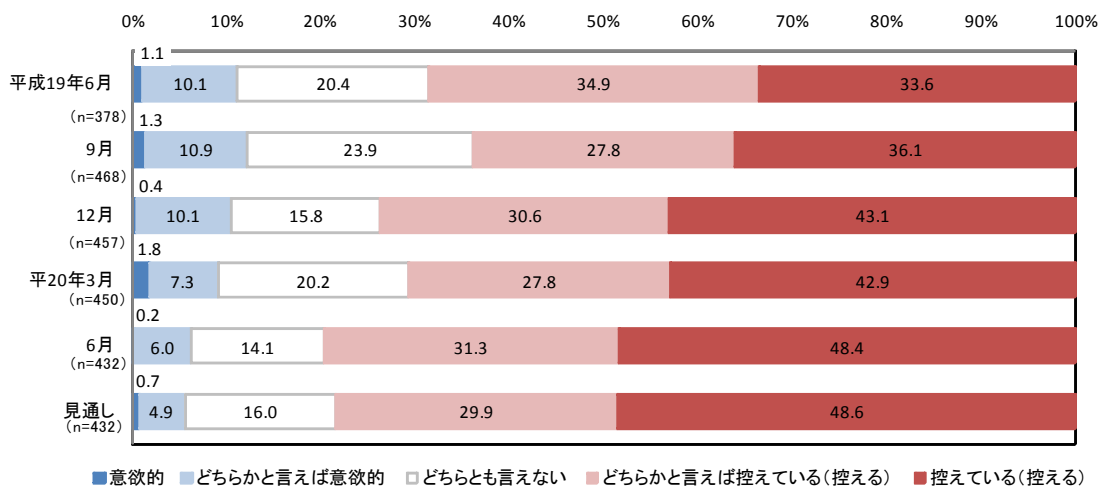
② ファッション衣料・靴など

現状認識は「控えている」（34.7%）と「どちらかと言えば控えている」（37.5%）を合わせると 72.2%の世帯が購入を控えているほか、買い控える傾向が高まっている。また、今後の見通しについても購入を控えると考えている世帯が増えており、買い控える傾向はさらに高まる見込み。



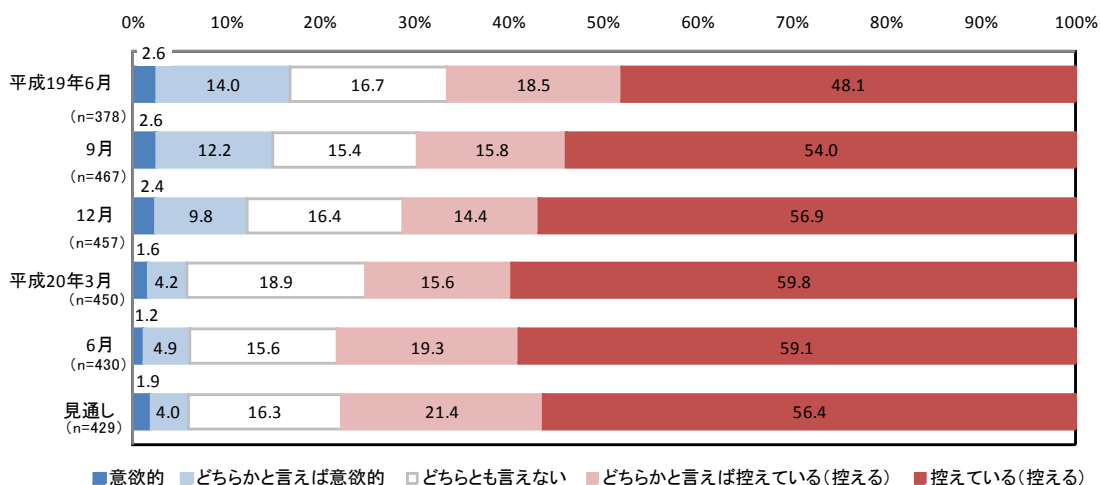
③ 家電・AV製品、家具など

現状認識は「控えている」(48.4%)と「どちらかと言えば控えている」(31.3%)を合わせると79.7%の世帯が購入を控えている。また、今後の見通しについても購入を控えると考えている世帯は多く、買い控える傾向は続く見込み。



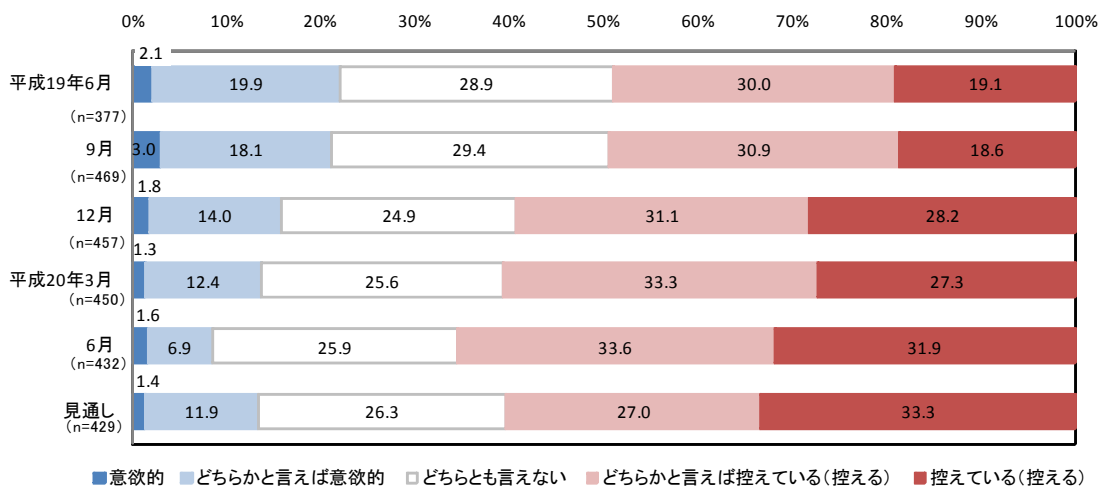
④ 金融商品(株式、債券など)

現状認識は「控えている」(59.1%)と「どちらかと言えば控えている」(19.3%)を合わせると78.4%の世帯が購入を控えているほか、買い控える傾向も徐々に高まっている。また、今後の見通しについても、購入を控えると考えている世帯が依然として多く、買い控える傾向は続く見込み。



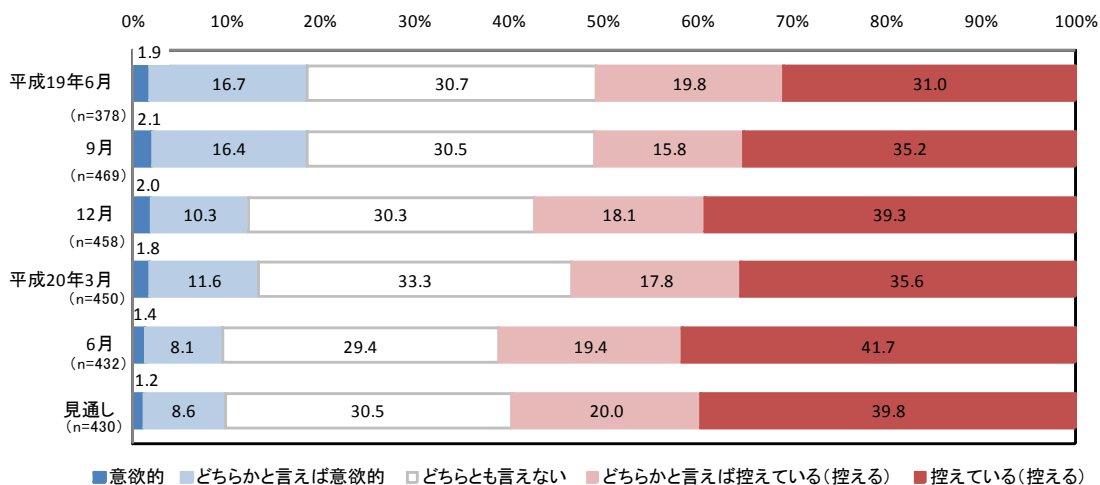
⑤ 娯楽・レジャー

現状認識は「控えている」(31.9%)と「どちらかと言えば控えている」(33.6%)を合わせると65.5%の世帯が支出を控えているほか、支出を控える傾向も徐々に高まっている。ただ、今後の見通しについては、わずかながら支出に意欲的な世帯の増加も見られる。



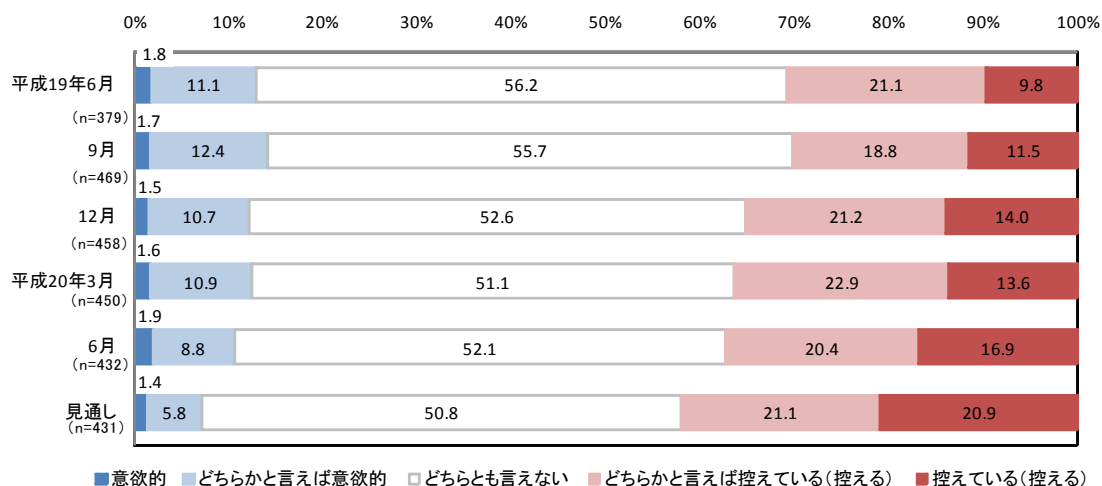
⑥ 習い事

現状認識は「控えている」(41.7%)と「どちらかと言えば控えている」(19.4%)を合わせると61.1%の世帯が支出を控えている。また、今後の見通しについても、支出を控えると考えている世帯は多い。



⑦ 交際費

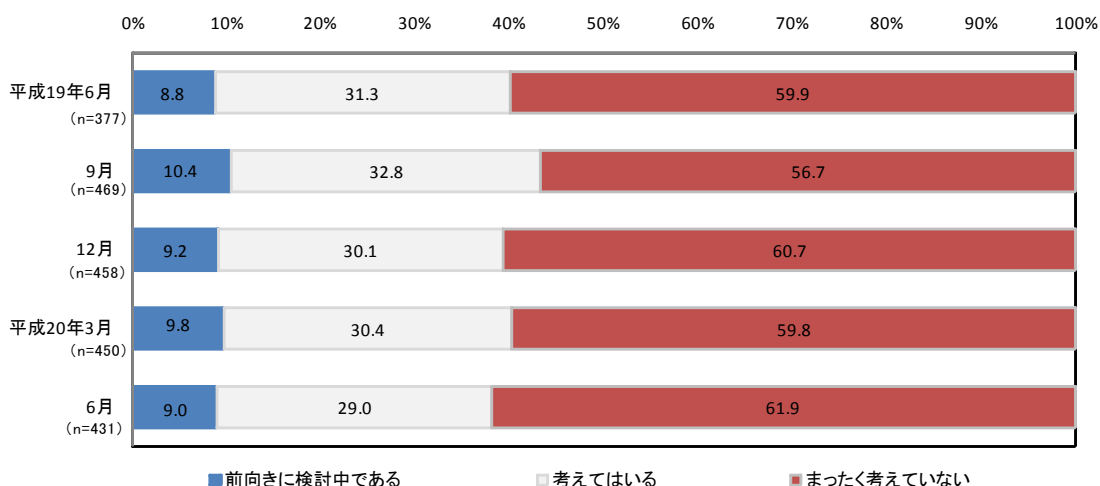
現状認識は「控えている」(16.9%)と「どちらかと言えば控えている」(20.4%)を合わせると37.3%の世帯が支出を控えているほか、交際費を節約している世帯が微増している。また、今後の見通しについても、交際費の支出を控えると考えている世帯が増えており、支出を手控える傾向がさらに強まる見込み。



4. 大きな買い物に関する判断と見通し

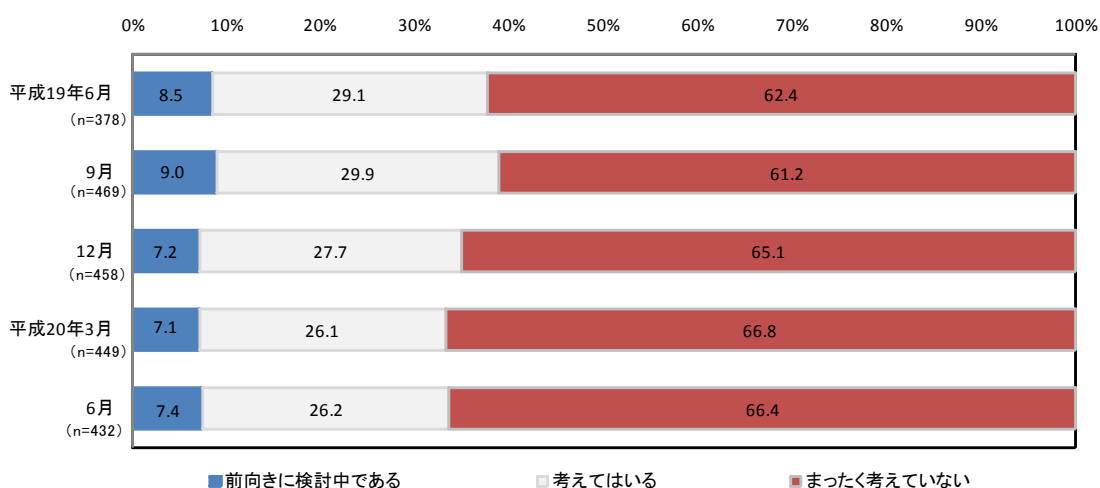
① 自家用車

自家用車の購入については「まったく考えていない」という世帯が61.9%を占めている。昨年同期と比べて「まったく考えていない」という世帯の割合が2.0%ポイント増えており、購入を控える傾向が高まっている。



② 住宅の購入・リフォーム

住宅の購入・リフォームについては「まったく考えていない」とする世帯が66.4%を占めている。昨年同期と比べて「まったく考えていない」とする世帯の割合が4.0%ポイント増えるなど、支出を控える傾向が高まっている。



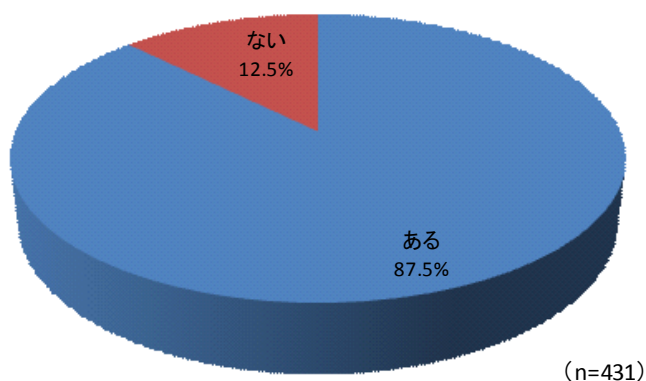
5. 特別調査：最近の貯蓄動向について

近年、高齢化や長引く景気低迷などの影響によって家計部門の貯蓄率低下が問題となっている。貯蓄は企業や政府の投資の原資に充てられるため、貯蓄率低下は経済成長の阻害要因となる可能性がある。今回は県民の貯蓄動向について特別調査を実施した。

(1) 貯蓄の有無について

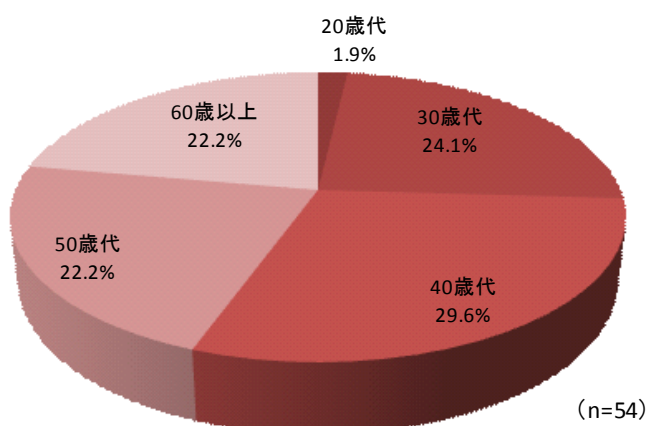
現在、貯蓄があるかどうか尋ねたところ、「ある」と答えた世帯は87.5%を占めている。「ない」と答えた世帯は12.5%であった【図表1参照】。

図表 1 貯蓄の有無



「貯蓄が無い」と答えた世帯は40歳代が最も多く、全体の29.6%を占めている。また、30歳代も24.1%と2番目に多く、30～40歳代の働き盛りの世代に比較的多い【図表2参照】。

図表 2 世帯主の年齢階級別「貯蓄の無い」世帯の割合



(2) 保有する貯蓄残高

「貯蓄がある」と答えた世帯の貯蓄残高を尋ねたところ、平均残高は 913 万円であった【図表 3 参照】。

貯蓄残高の内訳は、「普通預金・郵便貯金」が 152 万円、「定期・定額預金」が 387 万円、「保険」が 191 万円、「有価証券」が 105 万円となっている。

また、世帯主の年齢階級別に貯蓄の形態を見てみると、20 歳～30 歳代の若い世代で「普通預金・郵便貯金」の残高が他の貯蓄残高に比べて多く、若い世代ほど流動性の高い貯蓄を選んでいる。

一方、年齢構成が上がるほど「定期・定額預金」や「保険」などの貯蓄残高が増える傾向にあり、いわゆる“備える”目的の貯蓄が増えているほか、「有価証券」などの“資産を増やす”目的の貯蓄も増えている。

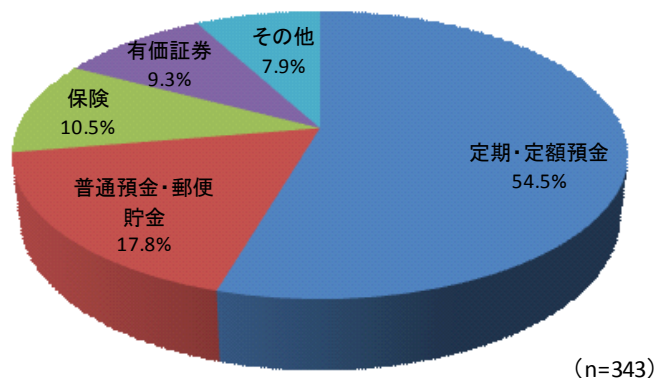
図表 3 世帯主の年齢階級別・貯蓄種類別の貯蓄残高

(単位:万円)

| | 郵便貯金 普通預金・ | 定期・ 定額預金 | 保 険 | 有 価 証 券 | 金 融 商 品 そ の 他 の | 残 高 合 計 |
|---------------|---------------|-------------|--------|------------------|--------------------------------------|------------------|
| 全世代 (n=366) | 152 | 387 | 191 | 105 | 77 | 913 |
| 20 歳代 (n=17) | 74 | 70 | 45 | 0 | 43 | 233 |
| 30 歳代 (n=91) | 136 | 160 | 89 | 54 | 54 | 493 |
| 40 歳代 (n=93) | 124 | 365 | 176 | 59 | 68 | 791 |
| 50 歳代 (n=86) | 189 | 514 | 328 | 166 | 66 | 1,262 |
| 60 歳以上 (n=79) | 240 | 824 | 317 | 249 | 155 | 1,784 |

また、「貯蓄がある」と答えた世帯に対し、今後重視したい貯蓄の種類を尋ねたところ、「定期・定額預金」と答えた世帯が 54.5%と最も多かった【図表 4 参照】。

図表 4 今後重視したい貯蓄の種類

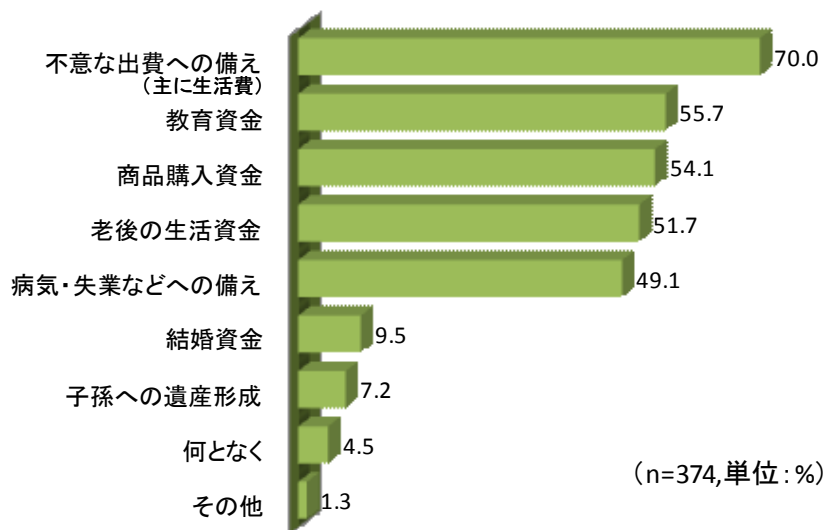


(3) 貯蓄の目的 (複数回答)

「貯蓄がある」と答えた世帯に対して貯蓄の主な目的を尋ねたところ、「不意な出費への備え (主に生活費)」と答えた世帯が 70.0%と最も多かった【図表 5 参照】。

貯蓄をして金額の大きな支出に備えるというよりも、生活費の一部を貯蓄に頼っている世帯が多い。

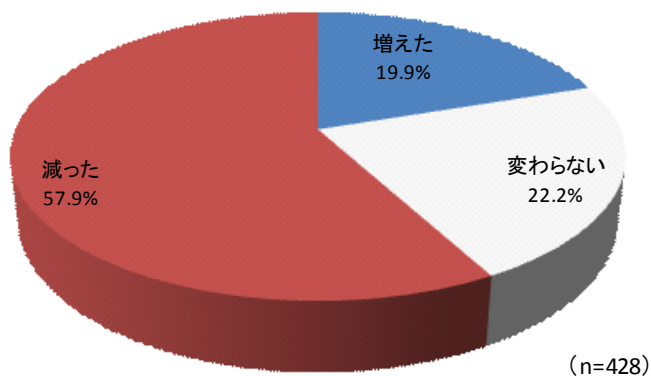
図表 5 貯蓄の目的 (複数回答)



(4) 貯蓄残高の動向

1年前と比べて貯蓄残高がどう変わったか尋ねたところ、「減った」と答えた世帯が 57.9%となっており、過半数を占めている【図表 6 参照】。

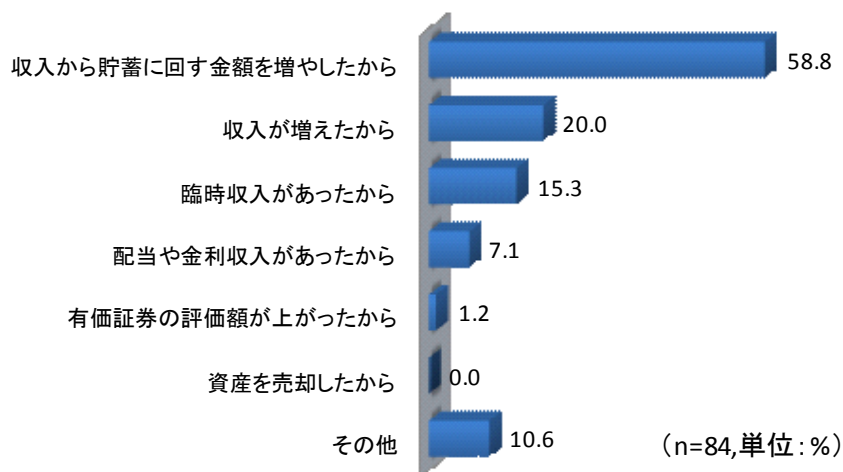
図表 6 貯蓄残高の動向 (1年前との比較)



① 貯蓄が「増えた」理由（複数回答）

1年前と比べて貯蓄が「増えた」と答えた世帯に対して増えた理由を尋ねたところ、「収入から貯蓄に回す金額を増やしたから」が最も多く、58.8%を占めている【図表7参照】。

図表7 貯蓄が「増えた」理由（複数回答）

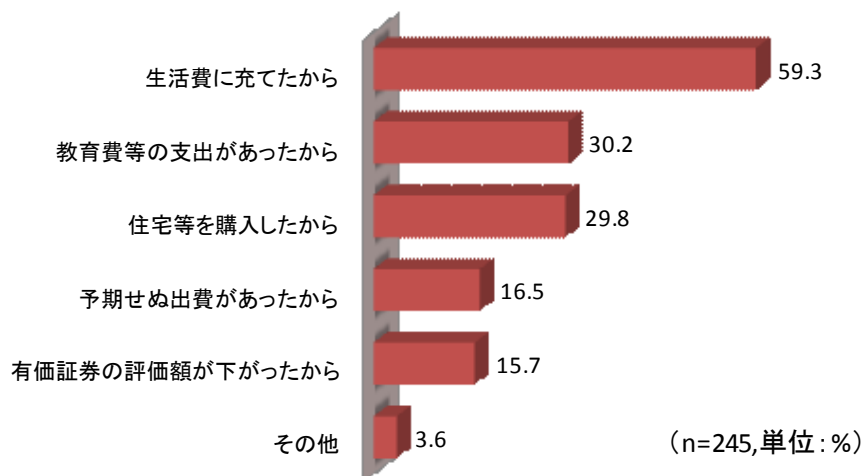


② 貯蓄が「減った」理由（複数回答）

1年前と比べて貯蓄が「減った」と答えた世帯に対して減った理由を尋ねたところ、「生活費に充てたから」が最も多く、59.3%を占めている【図表8参照】。

実際に多くの世帯が生活費の一部を貯蓄の取り崩しによって賄っており、苦しい生活事情が垣間見える。

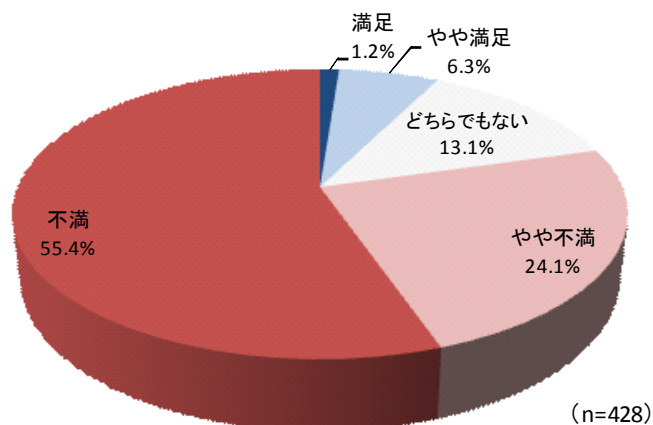
図表8 貯蓄が「減った」理由



(5) 貯蓄残高に対する満足度

現在保有する貯蓄残高の満足度を尋ねたところ、「不満」(55.4%) および「やや不満」(24.1%) と答えた世帯は 79.5%となっており、多くの世帯が貯蓄の残高に不満を感じている【図表9参照】。

図表 9 保有する貯蓄残高の満足度



(6) 貯蓄の目標金額

貯蓄の目標金額を尋ねたところ、平均は 1,621 万円であり、現在保有する貯蓄残高との差額は 709 万円であった【図表10参照】。

60 歳以上の世代を除くと、いずれの世代でも目標金額と現在保有する貯蓄残高との差額が大きく、貯蓄残高に対して不満を感じる要因にもなっていると推察される。

図表 10 世帯主の年齢階級別・貯蓄目標金額と保有残高との差額

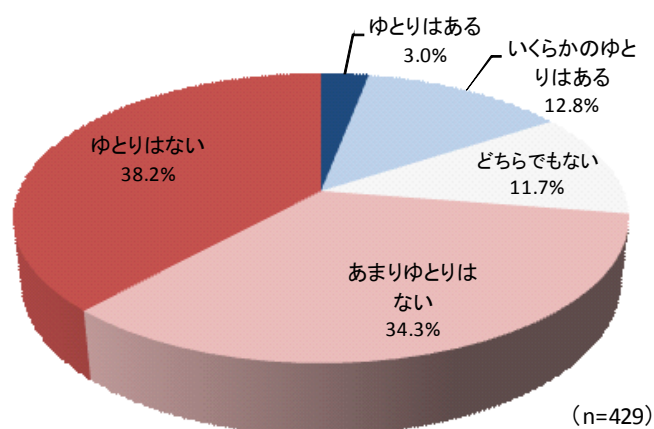
(単位:万円)

| | 目標金額 | 貯金のとの差額 | 貯蓄残高 |
|---------------|-------|---------|------|
| 全世代 (n=328) | 1,621 | - | 709 |
| 20 歳代 (n=18) | 1,112 | - | 879 |
| 30 歳代 (n=91) | 1,209 | - | 716 |
| 40 歳代 (n=85) | 1,631 | - | 839 |
| 50 歳代 (n=70) | 2,044 | - | 782 |
| 60 歳以上 (n=64) | 2,111 | - | 328 |

(7) 貯蓄する“ゆとり”

貯蓄する“ゆとり”があるかどうか尋ねてみたところ、「ゆとりはない」(38.2%) および「ゆとりはあまりない」(34.3%) と答えた世帯は 72.5% となっており、多くの世帯が貯蓄するゆとりがないと感じている【図表 11 参照】。

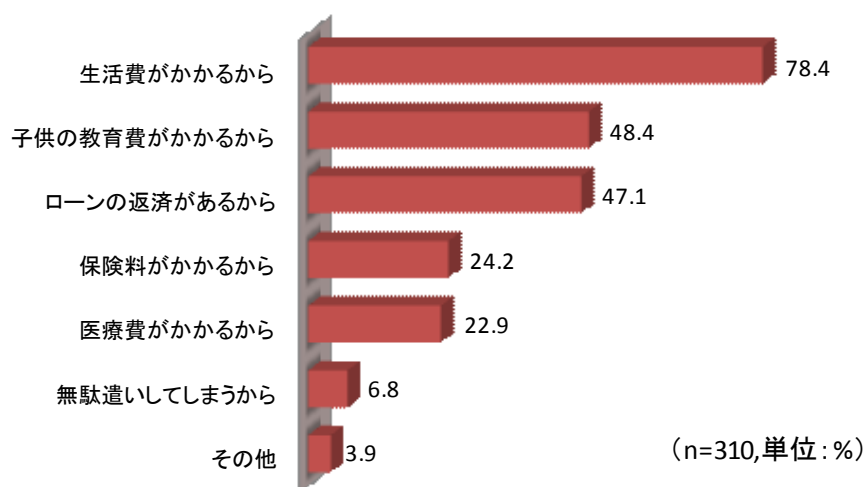
図表 11 貯蓄する“ゆとり”



また、貯蓄する“ゆとり”がないと答えた世帯に対して、ゆとりがないと感じる理由について尋ねたところ(複数回答)、「生活費がかかるから」と答えた世帯が最も多く、78.4%であった【図表 12 参照】。

先にも見たように、貯蓄を取り崩して生活費に充てている世帯も多く、苦しい生活事情が県民から貯蓄する“ゆとり”を奪っている。

図表 12 貯蓄する“ゆとり”がない理由(複数回答)



Ⅲ. 調査の概要

1. 調査の目的

県民の暮らし向きや今後の見通しについて時系列的に捉えるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の方法

- ・ 郵送調査専属モニターを利用したアンケート調査
- ・ モニター世帯数：482 世帯 ※今回の有効回答世帯数（回答率）：432 世帯（89.6%）

3. 調査の対象者

- ・ 県内に在住する勤労者（サラリーマン）世帯（世帯人数2人以上の世帯）

4. 調査期間

- ・ 平成20年6月2日～13日

5. 調査項目

（1）判断項目

① 景気判断（五肢択一）：

「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格（物価）」に関する現状認識と見通し。

② 暮らし向き（五肢択一）：

「世帯収入」、「資産価値」、「お金の使い方」、「暮らし向き」に関する現状認識と見通し。

③ 日常の買い物や支出動向（五肢択一）：

「嗜好品（お酒、たばこなど）」、「ファッション衣料・靴など」、「家電・AV製品、家具など」、「金融商品（株式、債券など）」、「娯楽・レジャー」、「習い事」、「交際費」の支出に関する現状認識と見通し。

④ 大きな買い物や支出動向（三肢択一）：

「自家用車」、「住宅（リフォーム含む）」の支出に関する現状認識と見通し。

（2）計数項目

① 最近1ヵ月の収支状況

6. 指数の作成方法

- (1) 「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格（物価）」、「世帯収入」、「資産価値」、「お金の使い方」、「暮らし向き」の7項目について、回答者の回答結果にポイントを与える。
- (2) ポイントの与え方は、例えば「県内景気」については、「良い」(1.0)、「どちらかと言えば良い」(0.5)、「どちらとも言えない」(0.0)、「どちらかと言えば悪い」(▲0.5)、「悪い」(▲1.0)とする。
- (3) 「県内景気」、「雇用環境」、「日用品価格（物価）」は家計を取り巻くマクロ経済環境に関する世帯の認識を把握するための設問であるため、回答者ごとにこれらのポイントを合計した後、「景気判断指数」としてまとめる。
- (4) 「世帯収入の増え方」、「資産価値の増え方」、「お金の使い方」、「暮らしのゆとり」は“我が家の暮らし向き”に関する世帯の認識を把握するための設問であるため、回答者ごとにこれらのポイントを合計した後、「暮らし向き指数」としてまとめる。
- (5) 「景気判断指数」と「暮らし向き指数」に対して質問項目数とサンプル数をウェイトとする係数を乗じ、両指数を標準化した上で足し合わせ、「消費指数」とする。

以 上

<お問い合わせ先>

株式会社荘銀総合研究所

研究開発グループ 熊本／齋藤（信）

〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F

TEL : 023-626-9017

FAX : 023-626-9038

E-mail : kenkyuu@sfsi.co.jp

URL : <http://www.sfsi.co.jp/>